

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	伊藤信寿
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学教授）宇野宏幸 副主査：（兵庫教育大学教授）井澤信三 委員：（兵庫教育大学教授）鳥越隆士 委員：（兵庫教育大学教授）石倉健二 委員：（上越教育大学教授）加藤哲文
3. 論文題目	ペアレント・トレーニングにおける母親の養育行動と経験学習プロセス
4. 審査結果の要旨	<p>論文提出による学位申請者 伊藤信寿から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成28年 2月20日（土） 16：10～16：50          場所：兵庫教育大学神戸ハーバーランドキャンパス講義室1</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>第1章 研究背景          ペアレント・トレーニングに関するこれまでの研究状況、本研究でのペアレント・トレーニングの概要と特徴、並びにKolbの経験学習モデルについて示した。</p> <p>第2章 ペアレント・トレーニングの有用性について          ペアレント・トレーニングの効果について検討した。親子関係については、母親の拒否的態度と支配的態度が減少していた。また、育児ストレスに関しては、子どもの行動に関する母親の感情面で有意な減少が認められた。</p> <p>第3章 ペアレント・トレーニング前後における子どもに対する母親の言動の変化について          実験的場面を用いて、子どもに関する母親の言動の変化について検討した。肯定的言動には有意差がなかったが、否定的な言動に有意な減少が認められた。</p> <p>第4章 母親の養育に対する認識の変化とその要因に関する検討          修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の手続きに従い、母親の認識が修正されるプロセスと、そのプロセスに影響を与えたペアレント・トレーニングプログラムの構成要素について検討した。母親の認識が修正されるまでに、ま</p>

ず「子どもの現状を理解する」こと、次に今までの「不適切な対応に気づく」こと、そして「適切な対応を意識する」という内省プロセスを経ていた。さらに、母親の認識が修正されるプロセスをKolbの経験学習サイクルに当てはめて考察した。また、母親の認識の修正に影響を与えた要因として、「記録をつける」「他の参加者からの助言」「スタッフからの助言」「母親自身の成功体験」が挙げられた。

#### 第5章 母親の子どもや養育に対する認識に関する継時的変化

母親の認識が修正されていく継時的変化について検討した。具体的経験と内省的観察との繰り返しの中で、成功体験を積み重ねることにより、新たな養育行動が形成されていく様子が明らかとなった。

#### 第6章 総合考察

経験学習モデルを参照して、母親の認識の修正を促すためのペアレント・トレーニングプログラムについて考察を行った。母親の記録と他の参加者からの助言により母親自身の内省が促され、成功体験を積み重ね、新たな養育行動を形成するプログラムの重要性について述べた。

### 2. 審査経過

通常の学級に在籍するAD/HDのある子どもへの対応が学校現場で喫緊の課題となっている背景をふまえ、彼らと保護者や教師などとの関係性の再構築が求められている。なかでも注目されている方法が、応用行動分析的アプローチで、代表的なものが母親を対象とするペアレント・トレーニングであり、対象児の行動変容に高い効果のあることが知られている。しかし、どのような変数が効果的なのか、母親の対応を変化させる諸要因についてはほとんど検討されてこなかった。このような中で、本論文の独自性はKolbの経験学習理論からアプローチすることで、母親の気づきや養育態度の変容を内省という視点で説明していることにある。この成果は、発達障害のある子どもだけでなく、一般的な母子関係における養育行動を経験学習という視座から理解できることを示すものであり、この点から氏の論文は高く評価された。

### 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 伊藤信寿 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。